



類推してプロダクトを拡張する(業務参照モデル例)

英語プロダクト(資材、部品、完成品、製品、商品)をサービスに拡張できる

プロセス	使い方の例(日本語)	英語	横拡張された意味
資材、仕掛品、完成品、製品、商品などのプロダクト呼称は、C40-20-10を参照。 GUTSY-4では、企業が調達する プロダクト を全て 資材 と、製造するプロダクトを全て 製品 、受注・出荷するプロダクトを全て 製品・商品 と表現しているのを、これを他に横拡張する必要がある。たとえば、サービス業では、出荷プロダクトは、サービス商品となる。			
調達	資材を調達		Source
	4.2.2	受領	Receive Product
	4.2.3	試験・検査	Verify Product
	4.2.4	移送	Transfer Product
完成品・製品を製造		Make	資材や仕掛品をより付加価値の高い状態にする。
製造	4.3.3	資材・仕掛品を投入	Issue Material
	4.3.4	製造・テスト	Produce and Test
	4.3.5	梱包	Package
	4.3.7	移管	Release Product
製品を出荷		Deliver	商品を出荷。サプライヤからすれば部品も商品。
出荷	4.4.03	在庫引当と出荷日確定	Reserve Inventory & Delivery Date
	4.4.09	ピッキング	Pick Product
	4.4.10	仕分・梱包	Pack Product
	4.4.12	出荷	Ship Product
	4.4.14	商品の据付	Install Product

業務参照モデルにおける「資材、製品、商品」を抽象化し、英語の名詞Productとして捉えると、その意味が大きく広がる「類推による水平拡張」の例を示したものの。これによって、業務参照モデルをサービス業など様々な業界に適用できるようになる。

業務参照モデルは日本語で、資材、製品、商品という名称で説明している。これを英語では、productだけとなる。日本語の長所であり欠点でもあるが、その具体性が意味を狭めてしまう。

業務参照モデルの資材、製品、商品を英語にすると、その意味は大幅に広がり、製造業だけでなく、対物サービス業、対人サービス業、金融業の業界にも適用できるようになる。